



人街元気!!

県民と県をつなぐ架け橋

友雅会NEWS



2018.12
第50号

組織内
討議資料

ふるや 古屋まさおと
ともに歩む **友雅会**
YOU-GA

【事務所】〒405-0007 山梨市七日市場783-8
〒405-0007 山梨市七日市場816-7(自宅)
TEL・FAX 0553-23-6688(後援会)
E-mail m.furuya@basil.ocn.ne.jp
発行責任者 詫間 仁 編集責任者 古屋 雅夫

県議1年を振り返り県政発展のため、さらに邁進!

皆さま方におかれましては、お変わりなくお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃より「**古屋まさお**」の議会活動に対しご支援、ご協力等を賜り改めて感謝申し上げます。

昨年10月に県議会議員として当選後、県政に携わり、早1年が過ぎました。県議会という新たなステージの中で、一つ一つが勉強の日々!! しっかりした自分の立ち位置「**初心忘れるべからず**」の気持ちを忘れることなく、この1年間、議員・議会活動に邁進してきました。

また、地域活動においては、多くの団体等並びに地域からお声をかけて頂き「東奔西走」。充実した日々と活動が出来ることにも感謝申し上げます。

特に、県議会においては市議8年余の経験を踏まえ、常に「**県民目線に立ち**」、本会議場での「代表質問」をはじめ、各種委員会等で積極的に発言、そして政策提言を行ってきております。

迎える2019年は「平成」最後の年でもあり、2020年の東京オリンピック、パラリンピック大会の準備年ともなり、一方、政治的には**知事選挙及び、県議会議員選挙**を含む統一自治体選挙、続く**参議院選挙**と選挙イヤーの年となります。「**古屋まさお**」県議においても道半ば、しっかり前を向き、引き続き県民の期待に応えるべく努力をしております。**(H31年は猪年・猪突猛進)**

結びに、本「**友雅会NEWS**」(後援会ニュース)もお陰様で市議会、県議会情報を発信して**50号**となりました。今後も「**県政だより**」と合わせて情報発信してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



古屋まさお県議の議会活動



H29年10月 会派：「リベラルやまなし」に所属



H30年6月 定例議会・土木森林環境委員会



H30年8月 秋田県庁、委員会研修



H30年9月「代表質問」傍聴記念



H30年2月 議会予算特別委員会



H30年11月 決算特別委員会

ふるや まさお 古屋雅夫のプロフィール

経歴・家族等

- 1954年(昭和29年)12月7日 山梨市牧丘町牧平に生まれる
・笛川小(旧牧丘第三小)、笛川中学校卒業
- 1973年 現在の塩山高等学校卒業(旧塩山商業高等学校)
日本電信電話公社に入社(現NTT東日本)、
2015年 定年退職
- 1975年～ 情報労連・NTT労組役員、連合山梨中部地協 議長
- 2009年 4月 山梨市議会議員に初当選～連続3期当選
- 2017年 10月 山梨県議会議員選挙(山梨市選挙区) 初当選
- 2018年 10月15日 山梨市政功労賞 受賞
- 【家 族】 妻、長男(会社員)
- 【趣 味】 野菜作り、ゴルフ、山歩き
- 【好きな言葉】 西郷隆盛の「敬天愛人」



議所属委員会、諸団体

【県議所属委員会】

- 土木森林環境常任委員会
- 「予算、決算、出資法人・指定管理に関わる」特別委員会委員
- ミネラルウォーター税導入に関する政策提言案作成委員会

【諸団体関係】

- 連合山梨議員懇話会副会長および連合山梨中部地域協議会、同東山梨地区協議会 顧問
- NPO法人都市農村交流支援センター 副理事長
- 県立塩山高等学校同窓会 参与
- FC. SABIOサッカークラブ 顧問など

Check!!

[@z4KGpKCe97FXbbf](https://twitter.com/z4KGpKCe97FXbbf)

<http://www.e-masao.net/>

いつでも、どこでも「県民目線」に立ち地域を元気にして行きます



「古屋まさお」県議 事業チェック

西関東連絡道路開通後(甲府山梨道路Ⅱ期)整備効果について

●国道140号線八幡南ランプ入口、岩出方面から交差点まで渋滞が解消！
甲府山梨道路Ⅱ期(万力ランプ～岩出ランプまでの3.9km)は甲府山梨道路Ⅰ期の延伸として平成20年度事業着手し万力ランプ～八幡ランプまで2.3kmを平成26年12月に完成2車線にて供用。平成30年3月21日に残る八幡南ランプ～岩手ランプまでの1.6kmを完成2車線で開通した。

- この道路が開通して1ヶ月の調査内容がまとまり公表された。
- ◆西関東道路：万力ランプ～八幡南ランプ開通前後の状況
 - 開通前：7,740台/12時間
 - 開通後：9,920台/12時間(八幡南ランプ付近)…〈28%増加〉
 - ◆国道140号 現道(八幡ランプ入口付近交差点) 岩手ランプまで開通後状況
 - 開通前：7,050台/12時間
 - 開通後：6,510台/12時間…〈8%減少〉

◇リニア開通までに、残されたリニア新駅まで東部区間7.1km早期開通を目指す



「甲武信エコパーク」登録と「世界農業遺産」の認定で「元気な山梨」を！

第1点は「甲武信エコパーク」、山梨、埼玉、東京、長野の4都県にまたがる秩父多摩甲斐国立公園を中心とする甲武信ヶ岳周辺の地域について、国連教育科学文化機関、ユネスコの生物圏保存地域、「エコパーク」に推薦を決めた。この19万haのエコパークエリア内には山梨市、甲州市、秩父市の市街地も含まれています。推薦を決めたユネスコ委は、このエリアは自然遺産として広範囲を支える水源地で絶滅危惧種に指定されているチョウや草花などの植物が生存している点も評価。またブドウ、モモなどの果樹栽培に配慮した持続可能な経済活動が進められ、企業などの連携した森林保全活動が推進されることが見込まれる点などが評価され、9月にユネスコ本部申請、来年の夏ごろには可否が決まる予定です。



第2点は「世界農業遺産」を目指し、県と峡東地域世界農業遺産推進協議会で取り組んでいます。先に日本農業遺産に認定されたことから、県は世界農業遺産認定事業と位置づけ、明年の春の認定実現にむけ精力的に取り組んでいます。

この「甲武信エコパーク」登録、「世界農業遺産」認定とされることで今後、地域の人々に誇りと自信をもたらすとともに、国内外からの知名度が向上し、果実や加工品のブランド評価が高まり、歴史ある峡東地域の果樹農業の維持・発展に大きく寄与します、一方で地域独特の果樹農業地帯の景観や甲武信ヶ岳源流とする笛吹川流域地域の自然環境の保全を維持していくことで「住みたい山梨」にも貢献できるものと確信し、県政においてもその推進を図ることを発言しています。



6月「松本・総合運動場(アルウィン)」の天然芝を視察



7月「高瀬市議会、山梨県議会」友好宣言調印式出席

県民の目線に立った「議会改革」を推進してまいります

9月議会直前に前議長辞任、9月議会冒頭に新議長選挙が行われました。マスコミが議長交替のたびに取り上げる「たらい回し人事」、これで今期「自民党誠心会」からの議長選出は5人目となりました。

最短の議長の在任期間は約6ヶ月、選出された新議長は約8ヶ月で任期満了となります。「またかと」批判する声が議会内でも聞えた。確かに議員の「出処進退」は自分で決め、自分が責任をもつことは当然である。しかし県民目線から見ると「たらい回し」と書かれても仕方が無い。「県議会は何をしている」との声も市民から頂きました！議長役割の一つは二元代表制に基づく、議会の機能の強化に向けた先導的役割を果たす(議会基本条例4条・議長の責務)と記載されており、「役割を果たした」と言えばそれまで？ バランスのとれた議会構成の必要性を強く感じました。

一方、議会は県民に寄り添い「県民の声」を県政に、しっかり反映していかなければならない。そのためにも、本会議場等における議員の活発な発言、討議時間の確保など県議会改革がさらに必要であると感じています。今後も「県民目線に立ち」、多くの課題解決に向け正面から向き合い取り組んでまいります。

古屋まさお県議の地域活動



1月 山梨市「出初式」観閲



1月 成人式で祝辞



3月 西関東連絡道路 岩手ランプまで全線開通式



4月「信玄祭り」武将姿の古屋県議と平昌五輪・菊地、押切選手



5月 砂防訓練(北杜市)視察



5月 第79回連合山梨メーデー参加



2月 食育活動として地域の皆さんと味噌作り



8月 西沢溪谷山開き・安全祈願式



10月 NPO活動地元保育園児と農業体験活動を行っている



11月 街頭演説に立ち県民に訴える

随想録

エッセイ



▶55年ぶりに2025年に万国博覧会、大阪開催(2回目)が11月24日に決まった。1970年に開催したときは観客数6,422万人。日本人の6割が見に行った計算となる。万国博覧会は条約で「人類の文化と産業の成果を競うもの」と定められているが、最近では情報技術の発達に伴ってそのあり方が論議されている。東京五輪・パラリンピック大会2020年開催、リニア中央新幹線2027年開通に続く国際イベント、経済効果などに期待する。▶平成29年度実施した県民意識調査の結果、満足度の大きい順、住宅66.9%、自然環境63.2%、日常医療58.8%、「ゴミ、生活排水」56.2%・・不満足度の大きい項目は(50%以上)、「公共交通機関」56.4%(通勤・通学に不便等)、「物価」50.6%、これらは過去3回の調査を含め一貫として50%を超えている。期待する山梨県の将来像、1位「自然」は過去2回の調査を含め一貫として7割の県民選択されている。こうした「県民の声」しっかり受け止め、引き続き県政に反映していきます。